

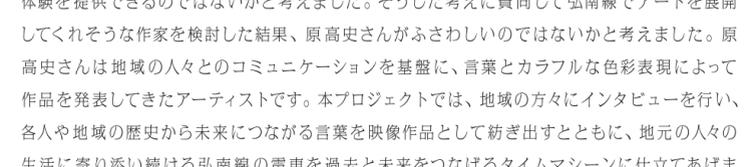


原高史

「記憶の未来」 AOMORI MAPPINK MEMORY 「記憶の未来」

MAPPINK TIME MACHINE MAPPINK STATION MAPPINK TICKET / WANOPASS

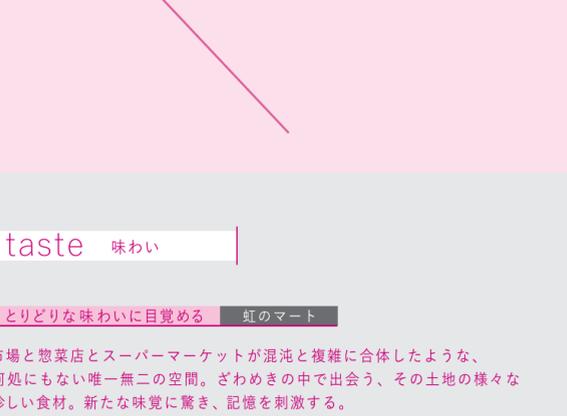
アーティスト・原高史 HARA TAKAFUMI / プロジェクトの依頼から、すぐに冬の青森を訪れた。吹雪の青森は寒く寂しく、体を温めたいと立ち寄った津軽尾上の大和温泉。地元の人たちが集う洗い場は、どこか緊張感があり、みんな個性的に、それぞれの洗い方で体を洗っている。青森人の生きる力を直感的に感じた。お湯に浸かりあたりを眺めた瞬間、記憶が蘇り、昔にタイムスリップしたようだった。大人たちに怒られないように、緊張しながら、じっと湯舟からまわりを見ていた子供の頃の自分。このひと時が印象的で、作品のテーマを「タイムトラベル」に決めた。コロナ禍、戦争、災害、環境問題、仮想空間…生きることに新たな意味と価値観を見出さなければならない時代。滞在とインタビューを通し見てきたことは、そんな今を生きる日本人に必要なヒントが、青森と青森人の精神にある。ピンクが過去と現在と未来を繋ぎ、何か忘れていないか、これからをどうしていくのか、生き方を考える作品にしたい。



ディレクター・南條史生 NANJO RUMIO / 弘前から黒石に至る弘南鉄道 弘南線は、長年にわたってこの地域の人々を結ぶ重要な輸送、情報基盤でした。この鉄道路線をアートの視点で見直し、人々の日常をちょっとばかり非日常に繋ぎ、自分達の鉄道と街・地域の人々との繋がりを振り返り、見慣れた風景を活性化させることで、地域の人々のみならず遠来の旅人にも、新鮮な体験を提供できるのではないかと考えました。そうした考えに賛同して弘南線でアートを展開してくれそうな作家を検討した結果、原高史さんがふさわしいのではないかと考えました。原高史さんは地域の人々とのコミュニケーションを基盤に、言葉とカラフルな色彩表現によって作品を発表してきたアーティストです。本プロジェクトでは、地域の方々インタビューを行い、各人や地域の歴史から未来につながる言葉を映像作品として紡ぎ出すとともに、地元の人々の生活に寄り添い続ける弘南線の電車を過去と未来をつなげるタイムマシーンに仕立てあげました。美しい津軽の自然と里山の中を走るピンク色の列車は多くの人々にさまざまな思いをもたらすでしょう。そして、遠来の旅人も含め、作品を体験するすべての人が忘れていた何かを見つけ、明日に向かって生きていく励みになることを願います。

### 五感の窓を開けて、記憶の種を探す旅

見る、聴く、嗅ぐ、触る、味わう。  
その場に身を置き、五感を研ぎ澄ませて、  
青森・津軽を全身で感じる旅。  
そこから芽吹いた小さな記憶の種は、過去に根を張り、  
未来に花を咲かせる。



### taste 味わい

**とどろいな味わいに目覚める** 虹のマーケット  
市場と惣菜店とスーパーマーケットが混沌と複雑に合体したような、何処にもない唯一無二の空間。ざわめきの中で出会う、その土地の様々な珍しい食材。新たな味覚に驚き、記憶を刺激する。  
▷ 青森県弘前市駅前町12-1 ※弘前駅 徒歩7分

**苦味に思いを馳せる** 珈琲の街ひろさき・藩士の珈琲  
珈琲は約150年前、弘前藩士が厳しい最北の果てで生き抜くための、病気の予防薬だった。現在の弘前は珈琲の街といわれ、魅力的な喫茶店が多い。日常に愛されるまでの年月を辿りながら味わってみる。  
▷ 珈琲の街ひろさきガイドマップ



**甘い思い出へと誘う** 古川菓子舗  
子供の頃の憧れが詰まったような、夢うつつのクラシカルな佇まいと、ほっと懐かしい素朴な甘み。口にすればささやかな思い出が蘇る。愛されるレトロな風貌の建物とお菓子が、楽しい幻想へ誘ってくれる。  
▷ 青森県平川市尾上栄松24-1 ※津軽尾上駅 徒歩7分

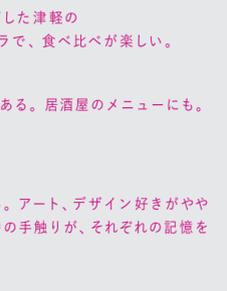
### sound 音

**弥生時代の足音を感じる** 田舎館村埋蔵文化財センター  
田んぼにくっきり残るのは、2100年前の足跡。果てしない年月の向こうから聞こえてくる、弥生人の足音とは。自分の足を重ね、太古の昔に生きていた人々の気配を感じてみる。  
▷ 青森県南津軽郡田舎館村高樋大曲63 ※田んぼアート駅 徒歩4分

**酵母の弾ける音に耳を澄ます** CRAZY CIDER (クレイジーサイダー)  
青森はりんご生産量日本一。フランス生まれのりんご酒・シードルを造る醸造所が多い中、アメリカ生まれのハードサイダーでニューカルチャーを発信。フクブク元気な生きた酵母の泡音に、りんご農家の未来を思う。  
▷ 青森県平川市新屋町道ノ下37-5 ※醸造所隣接の津軽おのえ温泉で販売 / 柏農高校前駅 徒歩6分

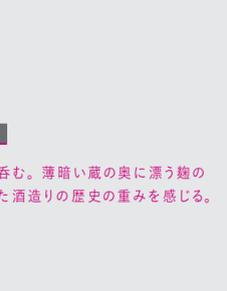


**田園に響く走行音のリズムに身を委ねる** 弘南鉄道 弘南線  
昭和2年に運行開始。田んぼの中をひた走る、2両編成のローカル電車。13駅のうち8駅は無人駅。遠くには岩木山を望み、四季折々、車窓に広がる田園風景は、まるで動く絵画のよう。ガタンゴトン揺れる車内に身を委ね、駅や沿線に今も残る、古き時代の面影を探す。



### feel 手触り

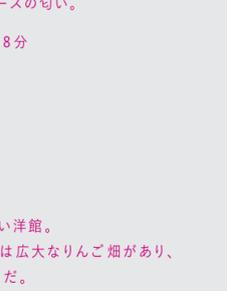
**湯触りの心地良さに浸る** 大和温泉  
銭湯のような気軽さで、津軽では温泉にちよくちよく出くわす。地元の人にはお気に入りのマイ温泉がある。ここも日常の憩いの場。なめらかな湯の心地良さに浸りながら、そこに集う人々の生きてきた姿を垣間見る。  
▷ 青森県平川市中佐渡南田1-2 ※津軽尾上駅 徒歩1分



**布に触れ、作り手の想いを感じる** ござん刺し  
細やかな糸の運びが繊りなす模様は目を奪われる、津軽の伝統工芸。今も愛され続ける手仕事で、現代風の色や柄も多々。布の手触りは作り手の個性。作品ひとつひとつに思いがけぬストーリーがあり、会話の糸口にも。  
▷ 作品は津軽各所で見かける。販売は「弘前ござん研究所」「green」「津軽工房社」等。



**おいしいぬくもりに満たされる** いがめんち  
イカゲソと野菜を刻み、小麦粉と混ぜて焼く・揚げるなどした津軽の郷土料理。店によって混ぜるものや大きさ、形はバラバラで、食べ比べが楽しい。寒い日は特に、手から伝わるぬくもりに浸ることができる。  
▷ 市場、総菜店、肉屋などで販売。「虹のマーケット」にもある。居酒屋のメニューにも。



**古物の手触りから記憶を辿る** PPP  
路地裏の古民家が集まった、古今東西の家具や雑貨たち。アート、デザイン好きがやや前のめりになる品揃え。懐かしけれど古びていない独特の手触りが、それぞれの記憶を呼び起こし、新たな価値を見出す。  
▷ 青森県弘前市百石町小路3 ※弘前駅 徒歩20分

### smell 匂い

**蔵の奥からほのかに漂う麹の匂い** 鳴海醸造店  
文化三年(1806)創業。趣ある佇まいや庭の様子に息を呑む。薄暗い蔵の奥に漂う麹の気配。ふっくら柔らかな甘い匂いに癒され、継承されてきた酒造りの歴史の重みを感じる。  
▷ 青森県黒石市中町1-1 ※黒石駅 徒歩10分

**一面に咲き乱れる花の香りを思う** 猿賀公園  
春は桜、夏は蓮の花。優しいピンクがあたり一面に広がり、花の香りに包まれる。幼らかなひとときを思い出し、飛び跳ねる鯉と、ゆらゆら泳ぐスワンボートを眺めて過ごす長閑な公園の時間。  
▷ 青森県平川市猿賀石林 ※盛美園に隣接 / 津軽尾上駅 徒歩14分

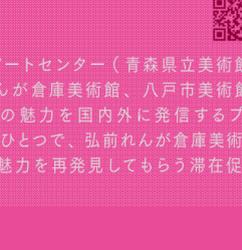


**懐かしいソースの匂いが流れる** 黒石焼きそば  
もちもちとした食感の、太く平たい麺が特徴。それを熱々スープに浸した異色の「黒石つゆ焼きそば」もある。寒い日を温かく、という北国らしい思いやり(との説あり)。町を歩けばいつ何時も、どこからともなく漂う、魅惑のソースの匂い。  
▷ 中町こみせ通り周辺に多数点在 ※黒石駅 徒歩約8分

### see あの日みた幻

**蕨の絡まるりんごの研究所** りんご史料館  
妖精の棲家と思わせる、壁一面どっさり蕨に覆われた古い洋館。青森のりんごの歴史や文化を展示している。建物の奥には広大なりんご畑があり、胸の熱くなるような最先端の研究が日夜行われているようだ。  
▷ 青森県黒石市牡丹平福民24 ※りんご研究所内 / 黒石駅 徒歩35分

**宇宙から来たような縄文デパート** 中三デパート  
土手町を弘前城に向かって歩くときと見えてくる、時空の歪みに建つようなフィクション風建築。この違和感を日常に溶け込ませる弘前の街の凄さたるや。デパートの上に乗った宇宙船は、縄文土器を表しているという。  
▷ 青森県弘前市土手町49-1 ※弘前駅 徒歩18分



**和洋折衷の空想建築** 盛美園  
ここは空想の町かと錯覚するほど、津軽には擬洋風建築が多い。日本の木造建築技術をベースに、西洋風のデザインを巧みに混ぜ込んだ文明開化の象徴。大工棟梁の豊かな想像力が花開いた、ファンタジックな建物に目を凝らす。  
▷ 青森県平川市猿賀石林1 ※猿賀公園に隣接 / 津軽尾上駅 徒歩10分

**記憶を繋ぐ、煉瓦の三角屋根** 弘前れんが倉庫美術館  
緑の芝生に映える赤煉瓦は、まるでクレヨンで描きたくなる絵本の世界。かつては日本酒やシードルの工場だった。100年の記憶を継承した「延築」により、アートの力で記憶を未来へ繋いでいく。  
▷ 青森県弘前市吉野町2-1 ※弘前駅 徒歩20分

青森をアートでたどるプロジェクト 原高史 〈AOMORI MAPPINK MEMORY 「記憶の未来」〉 2022年9月14日(水) - 11月13日(日)

主催 青森県 協力 弘前市、黒石市、平川市、田舎館村、弘前れんが倉庫美術館 (指定管理者・弘前芸術創造株式会社)、弘南鉄道株式会社、青森県立黒石高等学校情報デザイン科、JR東日本 弘前駅、弘前BRICK株式会社、株式会社中川ケミカル

ディレクター 南條史生 プロジェクトロゴ・コンセプトブックデザイン KIGI コンセプトブック編集 江澤香織 企画制作 エス・アンド・エー株式会社、株式会社桑原商店

QRコード: AOMORI MAPPINK MEMORY 「記憶の未来」特設サイト, 弘南鉄道 運行情報, WANOPASS 協賛店

アート列車のもう一つの車両には、連携企画として青森県立黒石高等学校情報デザイン科による「弘南鉄道沿線風景 2022 高校生による「記憶の未来」」を展示。構想段階から原高史が定期的に授業に参加し、生徒が街に出て独自取材した人々の声をもとに作品化しました。若い感性で紡がれたもう一つの「記憶の未来」も合わせてお楽しみください。

AOMORI GOKAN — 5館が五感を刺激する 青森県では、県内に点在する5つの美術館、アートセンター(青森県立美術館、青森県立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館)が連携し、青森のアートの魅力を国内外に発信するプロジェクトが始動しています。本企画はその活動のひとつで、弘前れんが倉庫美術館を中心にさらに周辺エリアに足を伸ばし、街の魅力を再発見してもらう滞在促進プログラムです。